

(※)濃度基準値が定まっていない場合には、ACGIH等で設定されているOELのうち最小のものを利用して検討を行う。濃度基準値が定まり、当該濃度基準値が検討に用いたOELと異なる場合には採用された測定法が当該濃度基準値に対しても適用可能か検証する。														分析法凡例	GC (Gas Chromatograph)	MS (Mass Spectrometer)	FID (Flame Ionization Detector)	： ガスクロマトグラフ	： 質量分析計	： 水素炎イオン化検出器	
No.	CAS RN	物質名称 黄色：分析方法がGC 青：分析方法がIC	①測定範囲 濃度基準値(※) の1/10及び2倍 が測定範囲に入 っていれば○、 不明確ならば△、 データなしなら ばND	②抽出/脱着率 または回収率 値が75%以上な らば○ 75%未満ならば △ データなしなら ばND	③保存安定性 値が90%以上な らば○ 90%未満ならば △ 50%程度ならば ×データなしな らばND	④破過 ○は濃度基準値 (※)の2倍で破 過の可能性なし △は濃度基準値 (※)の2倍で破 過の可能性あり データがなけれ ばND	測定方法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価 ○:OK(備考ありを含む) △:要確認（備考参照） P:検証や他の方法の探索が必要	総合評価の実用上の判断 ○ or P（○物質のみ表示）	備考								
以下令和４～６年度の検討対象物質																					
R6_35	98-86-2	アセトフェノン	○	△	○	○	固体捕集-ガスクロ マトグラフ分析法	球状活性炭管 0.1 L/min 120 min	二硫化炭素/イソプロパ ノール＝97.5/2.5 1 mL	GC/FID	○	○	・脱着率は安定しているので、脱着率分を補 正すれば添加回収率は定量的である。 ・TENAX TAを捕集剤とすると脱着溶媒に完 全に溶解するため、カラムへの影響を無視す れば脱着率は向上する。 ・脱着率：74.1～79.1％								
R6_140	7782-79-8	アジ化水素	△	△	△	○	固体捕集-イオンク ロマトグラフ分析法	アルカリ添着シリカゲル 0.33 L/min 15 min	炭酸ナトリウム0.9 mM/0.9 mM炭酸水素ナト リウム水溶液 3 mL	IC/UV	△	○	・アジ化ナトリウム粒子は、捕集管の上段に PVCまたはガラス繊維ろ紙を置くことで除去 できる。（ろ紙は分析しない） ・測定範囲は、濃度基準値の0.5～2倍 ・捕集後、できるだけ早く分析すること。								
R6_164	26628-22-8	アジ化ナトリウム	△	△	－	－	固体捕集-イオンク ロマトグラフ分析法	PVCフィルター 1 L/min 15 min	炭酸ナトリウム0.9 mM/0.9 mM炭酸水素ナト リウム水溶液 3 mL	IC/UV	△	○	・測定範囲は、濃度基準値の0.25～1倍 ・固体であるため、破過については考慮不 要。 ・捕集後、できるだけ早く分析すること。								